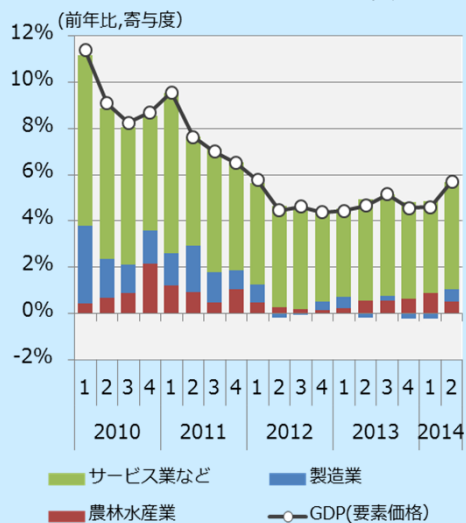


インド：GDP（2014年4-6月期）

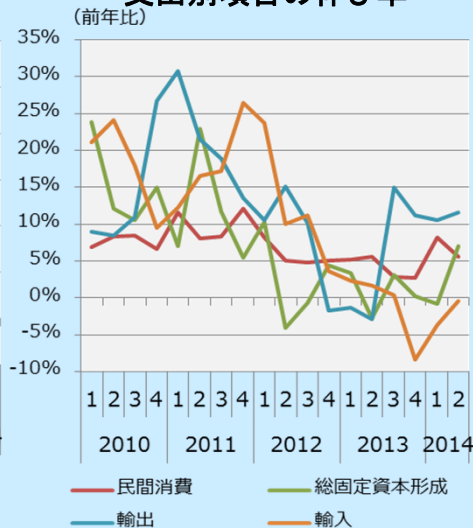
MRI Daily Economic Points
September 4, 2014

実質GDP成長率

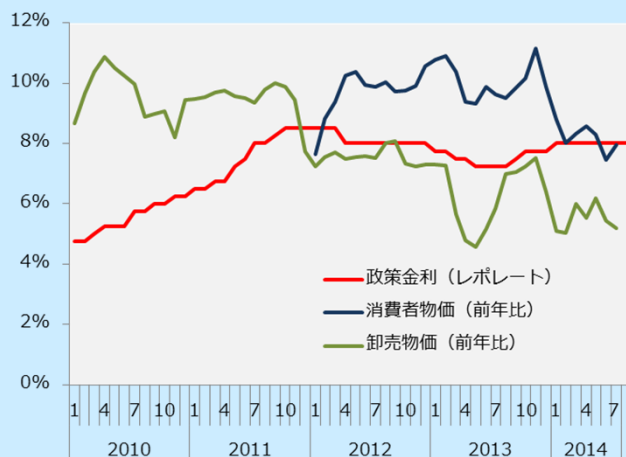
産業別GDP寄与度



支出別項目の伸び率



政策金利、消費者物価、卸売物価



評価ポイント

今回の結果

- インド中央統計局によると、インドの14年4-6月期の実質GDP(生産側、要素価格ベース)は、前年比+5.7%と前期(1-3月期:同+4.6%)より拡大した。産業別で見ると、13年後半より低迷していた製造業が、輸出復調を受けた生産回復から前年比+3.5%(前期:同▲1.4%)とプラスに転じたことに加え、サービス業も同+6.8%(前期:同+6.4%)と好調が続いている。
- 支出別(市場価格ベース)で見ると、民間消費は、前期(前年比+8.2%)からは低下したが、2014年入り後、インフレ圧力がやや緩和傾向をみせていることもあり、4-6月期も引き続き同+5.6%と高めの伸びとなった。政府消費も、4月~5月の選挙による支出増などから、前年比+8.8%と前期(同▲0.4%)からプラスに転じた。
- 外需をみると、既往の為替安により、輸出は前年比+11.5%と、昨年後半以降、回復が続いている。一方で、輸入は、金の輸入規制など各種輸入規制の影響により、前年比▲0.4%と小幅減少となったが、前期(同▲3.7%)からはマイナス幅が縮小した。
- 総固定資本形成は、海外投資の回復傾向もあり、前年比+7.0%と、2012年1-3月以来の高い伸びとなったものの、前年同期に投資が低迷した裏が出た格好で、実勢は数値ほど強くない点には注意が必要。

今後の見通し

- インドでは、①既往の通貨安から進んだインフレが足もとで小康状態となっていることに加え、②海外経済の持ち直しを受けた輸出回復が続いており、生産の回復や消費の拡大持続が成長率を押し上げた。今後は、輸出の緩やかな回復持続や、モディ政権への政策面での期待感の高まりを反映した海外投資の増加、インフラ整備の進捗なども期待され、インド経済は趨勢的に回復傾向をたどると予想される。
- 一方で、これまで貿易収支赤字の縮小を目的として、金の輸入規制などにより輸入抑制を図ってきたものの、14年6月以降、輸入は前年比で増加に転じている。構造的にも全体の3割超を原油・石油製品が占め、輸入抑制頼みの貿易収支改善には限界がある。今後の鍵を握るのは、①インフレ抑制、②インフラ整備や電力不足解消に向けた政策進捗スピード、③海外資本の呼び込みを通じた製造業の強化と輸出競争力の底上げであり、政策面での実行力が問われる。